

Cisco Meeting Server および Web アプリケーション

リリース 3.8

リリースノート

2023 年 9 月 8 日

目次

変更点	4
1 はじめに	5
1.1 Cisco Meeting Server	5
1.2 Cisco Meeting Server Web アプリケーション	5
1.3 スマートライセンス	5
1.4 ソフトウェアメンテナンスの終了	6
2 Cisco Meeting Server の新機能	7
2.1.1 Web アプリセッションのタイムアウト	7
2.1.2 Meeting Server でのアンケートの有効化	7
2.1.3 Jabber プレゼンスの更新	9
2.1.4 coSpace へのタグの追加	11
2.1.5 Web アプリケーションで共有されるコンテンツの画面解像度の設定	11
2.1.6 callProfiles API への名前の割り当て	12
2.1.7 Web アプリケーション会議の特定の参加者へのチャットメッセージの送信 をサポート	12
2.1.8 画面共有の改善	13
2.2 API の追加および変更の概要	14
2.3 MMP の追加および変更の概要	15
2.4 関連するユーザー マニュアル	16
3 Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.8 のアップグレード、ダウングレード、 およびデプロイ	17
3.1 リリース 3.8 へのアップグレード	17
3.2 ダウングレード	19
3.3 Cisco Meeting Server の展開	20
3.3.1 注意点	21
4 Cisco Meeting Server Web アプリケーション	22
4.1 Cisco Meeting Server Web アプリケーションの新機能	22
4.1.1 会議でのコンテンツ共有の最適化	22
4.1.2 会議内アンケートの作成	23
4.1.3 改善された仮想背景のパフォーマンス	27
4.1.4 会議中のプライベートチャット	27

4.1.5	チェコ語のサポート	29
4.1.6	UI 変更	29
4.1.7	ユーザー補助の向上	29
4.2	Web アプリケーションの使用	29
4.3	テスト済のブラウザバージョン	30
	iOS 13 以降および macOS 10.15 以降を使用しているユーザーに対する重要事項	31
	MacOS 10.15 以降の Chrome 上での画面共有に関する重要事項	31
4.3.1	Safari ブラウザのユーザー補助設定に関する重要事項	31
4.3.2	Microsoft Edge のグループポリシー設定に関する重要な注意事項	31
4.4	製品マニュアル	32
5	バグ検索ツール、解決済みの問題と未解決の問題	33
5.1	Cisco Meeting Server で解決された問題	34
5.2	Cisco Meeting Server Web アプリケーションで解決された問題	34
5.3	Cisco Meeting Server の未解決の問題	34
5.3.1	既知の制限事項	35
5.4	Cisco Meeting Server Web アプリケーションで未解決の問題	35
付録 A:	Meeting Server プラットフォームメンテナンス	37
6.1	Cisco Meeting Server 1000 およびその他の仮想プラットフォーム	37
6.2	Cisco Meeting Server 2000	37
6.3	コールキャパシティ	37
6.4	Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコール キャパシティ	40
6.5	Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールキャパシティ – 外部コール	40
6.6	Cisco Meeting Server Web アプリケーションのキャパシティ：混在（内部 + 外部） 発信	41
付録 B:	アプリケーション機能の比較	42
	ユーザー補助の注意事項	48
	シスコの法的情報	49
	シスコの商標	50

変更点

バージョン	変更箇所
2023 年 9 月 7 日	バージョン 3.8 の最初のリリース

1 はじめに

このドキュメントでは、Cisco Meeting Server ソフトウェアのバージョン 3.8 および Cisco Meeting Server Web アプリケーションにおける新機能、改善、および変更について説明します。

1.1 Cisco Meeting Server

Cisco Meeting Server ソフトウェアは以下でホストできます。

- Cisco Meeting Server 2000、B200 ブレード 8 枚を搭載した UCS 5108 シャーシ、および Meeting Server ソフトウェアをプレインストール。
- Cisco Meeting Server 1000、VMware を事前設定済みの Cisco UCS サーバー、および VMware 導入環境としてインストールされた Cisco Meeting Server。
- または仕様ベースの VM サーバー。

このリリースノートではこれ以降、Cisco Meeting Server ソフトウェアを Meeting Server と呼びます。

注： Cisco Meeting Management は、製品登録と、スマートライセンスのサポートに関連するスマート アカウントとのやり取りを処理します。Meeting Management 3.8 には Meeting Server 3.8 が必要です。

- **アップグレード：**最初に Meeting Management をアップグレードし、スマートライセンスを完了してから、Meeting Server をアップグレードするワークフローを推奨しています。

これよりも前のバージョンからアップグレードする場合は、`backup snapshot <filename>` コマンドを使用して構成のバックアップを作成し、別のデバイスに安全に保存することを推奨します。詳細については、『MMP コマンド リファレンス ガイド』を参照してください。

1.2 Cisco Meeting Server Web アプリケーション

Cisco Meeting Server Web アプリケーション (Web アプリケーション) は、ユーザーが会議 (音声とビデオ) に参加し、画面の表示情報を共有できる、Cisco Meeting Server 用のブラウザベースのクライアントです。

注： デスクトップ版、iOS 版、WebRTC 版の Cisco ミーティング アプリケーションは Cisco Meeting Server バージョン 3.0 以降サポートされなくなりました。

1.3 スマートライセンス

3.4 リリース以降、スマートライセンスは Meeting Server に必須です。3.4 リリース以降、従来のライセンスのサポートは廃止されました。スマートライセンスに移行することをお勧めします。

スマートライセンスと Meeting Management のアップグレードの詳細については、[「Meeting Management リリースノート」](#)を参照してください。

1.4 ソフトウェアメンテナンスの終了

Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.8 のリリースでは、Cisco は、表 1 に記載されているソフトウェアのソフトウェアメンテナンス終了のタイムラインを発表しました。

表 1 : Cisco Meeting Server のバージョンのソフトウェアメンテナンス終了予定

Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン	ソフトウェアメンテナンス終了通知期間
Cisco Meeting Server バージョン 3.6.x	Cisco Engineering が Cisco Meeting Server バージョン 3.6.x の最終的なソフトウェア メンテナンス リリースやバグ修正をリリースする最終日は、2024 年 1 月 5 日です。

Cisco Meeting Server に関するシスコのソフトウェア メンテナンス終了ポリシーの詳細については、[こちら](#)を参照してください。

2 Cisco Meeting Server の新機能

Meeting Server ソフトウェアのこのバージョンでは、次の新機能と変更が導入されています。

- [Web アプリケーションセッションのタイムアウト](#)
- [Meeting Server でのアンケートの有効化](#)
- [Jabber プレゼンスの更新](#)
- [coSpace へのタグの追加](#)
- [Web アプリケーションで共有されるコンテンツの画面解像度の設定](#)
- [callProfiles への名前の割り当て](#)
- [Web アプリケーション会議の特定の参加者へのチャットメッセージの送信をサポート](#)
- [画面共有の改善](#)

2.1.1 Web アプリセッションのタイムアウト

Web アプリケーションセッションのデフォルトのタイムアウト値は 24 時間です。バージョン 3.8 以降、管理者は Meeting Server でこの値を設定できます。セッションタイムアウトを時間単位で設定するための新しい MMP コマンド `callbridge wc3jwt expiry <expiry time in hours>` が追加されました。このコマンドの値の範囲は、1 ~ 24 です。

2.1.1.1 MMP の追加

コマンド/例	説明
<code>callbridge wc3jwt expiry <expiry time in hours></code>	Web アプリケーションのセッションタイムアウトを時間単位で設定します。 1 ~ 24の整数を指定できます。設定しない場合のデフォルト値は 24 です。
	注：Call Bridges を再起動して、変更を適用します。

2.1.2 Meeting Server でのアンケートの有効化

バージョン 3.8 には [アンケート (Surveys)] 機能が導入されています。Web アプリケーション会議の主催者は、参加者を招待して意見を共有することで、会議をよりインタラクティブにすることができます。

この機能は、コールレベルと参加者レベルで有効化できます。コールレベルで有効にすると、会議でアンケートを実施できるかどうかが決まり、参加者レベルで有効にすると、参加者がアンケートの作成/起動/削除/結果の表示を行えるかどうかが決まります。

2.1.2.1 API の追加

コールレベルで [アンケート (Surveys)] 機能を有効/無効にするための新しい API パラメータ `SurveyAllowed` が導入されました。パラメータは、次の API メソッドでサポートされています。

- /calls/ への POST
- /calls/<call id>/ への PUT
- /calls/<call id> で GET
- /callProfiles への POST
- /callProfiles/<call profile id> への PUT
- /callProfiles/<call profile id> で GET

Request パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
surveyAllowed	true false	<p>True : 会議でのアンケートが許可され、参加者がアンケートに参加できることを示します。</p> <p>False : 会議でのアンケートが許可されていないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

さらに、参加者レベルで [アンケート (Surveys)] 機能を有効/無効にするための新しい API パラメータ **surveyOpsAllowed** が導入されました。パラメータは、次の API メソッドでサポートされています。

- /calls/<call id>/callLegs への POST
- /callLegs/<callLegId> への PUT
- /callLegs/<callLegID> で GET
- /calls/<call id>/participants への POST
- /callLegProfiles への POST
- /callLegProfiles/<call leg profile id> で GET
- /callLegProfiles/<call leg profile id> への PUT

Request パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
SurveyOpsAllowed	true false	<p>True - 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示を行えることを示します。</p> <p>False : 参加者がアンケートの作成、起動、削除、結果の表示ができないことを示します。</p> <p>このパラメータには、通話と通話プロファイルの階層に関する通常のルールが適用されます。階層のすべてのレベルで未設定にすると、デフォルトで false になります。</p>

この機能は、MeetingApps サービスを介して実装されます。MeetingApps サービスのデプロイの詳細については、『[Cisco Meeting Server シングル分割導入ガイド](#)』を、MeetingApps の構成については、『[Cisco Meeting Server MMP ガイド](#)』を参照してください。

2.1.3 Jabber プレゼンスの更新

2.1.3.1 Jabber ユーザー ステータス メッセージの機能強化

バージョン 3.8 では、Jabber ユーザーのプレゼンス ステータスメッセージが変更されています。バージョン 3.7 の以前のリリースでは、Jabber ユーザーが Web アプリケーションにサインインして会議に参加すると、Meeting Server によって Jabber ステータスが [会議中、通話中 (In a meeting, In a call)] に更新されました。バージョン 3.8 から、このステータスメッセージは [通話中 (On a call)] に変更されました。

Meeting Server がさらに改善され、Jabber ユーザーが Meeting Server Web アプリケーション会議に参加したときに適切な参加ステータスが表示されるようになりました。

以前のリリースと同様に、ユーザーが会議を終了すると、Meeting Server は以前のステータスに戻ります。Meeting Server は、次の場合、Jabber ステータスを更新しません。

- Web アプリケーション会議に参加中に、Jabber ユーザーが別の会議または通話に参加している場合、Meeting Server は、Jabber ステータスを更新しません。
- Jabber ユーザーが、ステータスを [サイレント-応答不可 (DND - Do not disturb)] に設定しているか、手動で [離席中 (Away)] に設定している場合、Meeting Server は、Jabber ステータスを更新しません。
- ユーザーが Web アプリケーション会議中にいつでも手動で Jabber ステータスを更新できる場合、Meeting Server は手動で更新されたユーザーステータスを上書きしません。
- Meeting Server は、コンテンツ共有のプレゼンスを更新しません。

注： Meeting Server は、TCP ポート 8083 を使用して IMP Server に接続します。IMP Server と Meeting Server Call Bridge の間にファイアウォールがある場合は、このポートを開いて通信を許可することをお勧めします。

2.1.3.2 Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager/IMP Server 間のセキュアな通信を実現

バージョン 3.8 では、Meeting Server and Cisco Unified Communications Manager/IMP Server 間のセキュアな通信が可能です。これは、エンティティ間で CA 証明書バンドルをインストールして検証することで実現されます。

Meeting Server に Cisco Unified Communications Manager および IMPS の証明書をインストールして検証するための新しい MMP コマンドが導入されました。IMP Server の CUPS 証明書と Cisco Unified Communications Manager の Tomcat 証明書は、Meeting Server にアップロードして検証する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager および IMPS の証明書をインストールするには、次の手順を実行します。

1. SFTP クライアントを使用して Meeting Server にログインし、認証局のバンドル ファイルを Meeting Server にコピーします。
2. Meeting Server の MMP に SSH で接続します。

3. 次のコマンドを使用して、CUCM と IMPS の証明書を割り当てます。

a. Cisco Unified Communications Manager の場合 :

```
callbridge ucm certs <cert-bundle>
```

b. IMPS の場合 :

```
callbridge impo certs <cert-bundle>
```

注 : MMP コマンドである `callbridge ucm certs none` または `callbridge impo certs none` を使用して、Meeting Server からそれぞれ Cisco Unified Communications Manager または IMPS 証明書を削除します。

IMPS の TLS 証明書を確認するには、次の手順を実行します。

次のコマンドを使用して、Cisco Unified Communications Manager および IMP Server の TLS 検証を有効または無効にできます。

1. Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS 検証を有効または無効にするには、次のコマンドを使用します。
`callbridge ucm verify <enable/disable>`
2. Meeting Server と IMPS 間の TLS 検証を有効または無効にするには、次のコマンドを使用します。
`callbridge impo verify <enable/disable>`
3. Call Bridges を再起動して、コマンドを使用して変更を適用します。
`callbridgerestart`
4. MMP コマンドを使用して Cisco Unified Communications Manager サービスを確認できます。
`callbridge impo <hostname/IP> <presence_user> presence_service status`

同様に、Meeting Server の Callbridge 証明書バンドルは、IMP Server の CUPS トラストストアおよび Cisco Unified Communications Manager の Tomcat トラストストアにアップロードする必要があります。

2.1.3.3 MMP の追加

コマンド/例	説明
<code>callbridge ucm certs <cert-bundle></code>	Cisco Unified Communications Manager の CA の信頼できる証明書を追加します。
<code>callbridge ucm verify <enable/disable></code>	Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS 検証を有効または無効にします。
<code>callbridge ucm certs none</code>	Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS 検証用に追加された証明書を削除します。
<code>callbridge impo certs <cert-bundle></code>	IMP Server に CA の信頼できる証明書を追加します。
<code>callbridge impo verify <enable/disable></code>	Meeting Server と IMP Server 間の TLS 検証を有効または無効にします。
<code>callbridge impo certs none</code>	Meeting Server と IMP Server 間の TLS 検証用に追加された証明書を削除します。

2.1.4 coSpace へのタグの追加

バージョン 3.8 以降、Meeting Management ビデオオペレータは、関連付けられているこれらの会議とスペースへのアクセスのみを許可されます。管理者は、Meeting Server API の各 CoSpace にタグを追加することでこの機能を有効にできます。このタグは、Meeting Management がそれぞれの会議スペースを取得するために使用します。Meeting Management でビデオオペレータに割り当てられたこれらのタグによって、アクセスできるスペースまたは会議が決まります。

この機能をサポートするために、coSpaces API に新しい API パラメータが導入されました。管理者は、coSpaces API を作成または変更する際に、タグに任意の名前を設定できます。各 coSpace に設定できるタグは 1 つだけです。ただし、同じタグ名を複数の CoSpace に追加できます。

注： Meeting Management で進行中の会議中に coSpace に追加または変更されたタグは、後続の会議/セッションからのみ反映されます。

2.1.4.1 API の追加

新しい API パラメータ spaceTag が coSpaces API に追加されました。このパラメータは、次のメソッドでサポートされています。

/coSpaces への POST

/coSpaces/<coSpace ID> への PUT

/coSpaces で GET

/coSpace/<coSpace ID> で GET

Request パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
spaceTag	文字列	特定の CoSpace に付与されたタグの名前。各スペースのタグは一意で、大文字と小文字は区別されません。最大 10 文字です。

2.1.5 Web アプリケーションで共有されるコンテンツの画面解像度の設定

バージョン 3.8 には、Web アプリケーション会議でコンテンツを共有する際に、プレゼンターの画面の最大解像度を設定するオプションがあります。ただし、ネットワークの状態が変化する場合、画面の解像度は利用可能な帯域幅に基づいて調整されますが、指定された最大制限を超えることはありません。たとえば、制限が 720p に設定されている場合、送信者の画面共有解像度は 720p より低くできますが、720p を超えることはできません。

画面解像度は、720p、1080p、または無制限に設定できます。[制限なし (Unrestricted)] を選択すると、ブラウザに依存してコンテンツ共有の解決方法が設定されます。

この機能は、webBridgeProfiles API の contentResolution パラメータを使用して実装されます。

2.1.5.1 API の追加

新しい API パラメータ `contentResolution` を `webbridgeProfile` API に追加されます。このパラメータは、`/webBridgeProfiles/` の POST、PUT、GET メソッドでサポートされています。

Request パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
<code>contentResolution</code>	720p 1080p unrestricted	Web アプリケーションでコンテンツを共有する際のプレゼンター画面の最大解像度。

2.1.6 callProfiles API への名前の割り当て

バージョン 3.8 から、システム管理者は、名前で `callProfiles` を検索して取得できます。これにより、自動生成された長い文字列である `callProfile ID` に対して名前を使用して、必要な `callProfiles` を簡単に検索できるようになります。

`callProfiles` API が拡張され、作成された各 `callProfiles` の `name` パラメータが含まれるようになりました。`callProfile` を作成または変更する際に、新しいパラメータを使用して任意の名前を割り当てることができます。このパラメータの最大長は 200 文字です。Meeting Server Web インターフェイスの `callProfiles` API に、`name` 属性を使用して `callProfile` を検索するための新しいフィルタオプションが追加されました。

2.1.6.1 API の追加

`callProfiles` API に、新しい `name` API パラメータが導入されました。このパラメータは、次のメソッドでサポートされています。

`/callProfiles/` への POST

`/callProfiles/<call profile id>` への PUT/

`/callProfiles/<call profile id>`

で GET/ `/callProfiles/` で GET

Request パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
<code>name</code>	文字列	<code>callProfiles</code> の名前。

2.1.7 Web アプリケーション会議の特定の参加者へのチャットメッセージの送信をサポート

バージョン 3.8 では、Web アプリケーション会議中に特定の参加者にチャットメッセージを送信できるようになりました。以前は、Web アプリケーションの参加者がメッセージを送信して会議の全員にブロードキャストすることができました。このリリースでは、Web アプリケーションの参加者は、会議の全員にメッセージを送信するか、特定の参加者にメッセージを送信するかを選択できます。

Web アプリケーションでこの機能をサポートするには、既存の API パラメータである `chatAllowed` と `chatContributionAllowed` を使用します。この機能は、Web アプリケーションのみでサポートされています。

2.1.7.1 API の追加

chatAllowed request パラメータは、コールレベルでチャットを有効または無効にするために使用します。このパラメータは、次の API 操作でサポートされています。

- /calls への POST
- /calls/<call id> への PUT
- /calls/<call id> で GET
- POST から /callProfiles
- PUT から /callProfiles/<call profile id>
- /callProfiles/<call profile id> で GET

Request パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
chatAllowed	true false	値が指定されている場合、このコールプロファイルを使用してこのコールでチャットを許可するかどうかを決定します。

さらに、管理者は、**chatContributionAllowed** パラメータを使用して、特定のコールの参加者がチャットメッセージを送信できるきめ細かいレベルで制御できます。このパラメータは、次の API 操作でサポートされています。

- /calls/<call id>/callLegs への POST
- /callLegs/<call leg id> で GET
- /callLegs/ <call leg id> への PUT
- /calls/<call id>/participants への POST
- /callLegProfiles への POST
- /callLegProfiles/<call leg profile id> への PUT
- /callLegProfiles/<call leg profile id> で GET

Request パラメータ	タイプ/値	説明/注意事項
chatContributionAllowed	true false	値が指定されている場合、このコールレッグ/この参加者 /callLegProfile を使用したコールレッグがチャットでメッセージを送信できるかどうかを決定します。

2.1.8 画面共有の改善

Meeting Server が改善され、Web アプリケーション会議での画面共有/プレゼンテーションの品質が向上しました。プレゼンテーションの共有中に Chrome からのキープアライブパケットを処理し、プレゼンテーションの共有に起因するパケット損失を削減するための機能強化が行われました。さらに、H.264 エンコーダの MaxQp 値が変更され、画像とビデオの品質が向上しています。

2.2 API の追加および変更の概要

Meeting Server 3.8 の API 機能には、次の新しい API パラメータが含まれています。
callProfile API を名前で検索するための新しい API パラメータが追加されました。

- name が、以下に導入されました：
 - /callProfiles/ への POST
 - /callProfiles/<call profile id>/ への PUT
 - /callProfiles/ で GET
 - /callProfiles/<call profile id>/ で GET

Web アプリケーション会議でプレゼンターの画面の最大解像度を設定するための新しい API パラメータが追加されました

- contentResolution パラメータが以下で導入されました：
 - /webBridgeProfiles/ での POST、PUT、GET メソッド

CoSpace にタグを追加するための新しい API パラメータが追加されました。

- spaceTag パラメータが以下に導入されました：
 - /coSpaces への POST
 - /coSpaces/<coSpace ID> への PUT
 - /coSpaces で GET
 - /coSpace/<coSpace ID> で GET

Web アプリケーションで [アンケート (Surveys)] 機能を有効にするための新しい API パラメータが追加されました。

- surveyAllowed が以下に導入されました：
 - POST から /calls/
 - /calls/call id/ への PUT
 - /calls/call id/ への GET
 - /callProfiles への POST
 - /callProfiles/<call profile id> への PUT
 - /callProfiles/<call profile id> で GET
- SurveyOpsAllowed が以下に導入されました：
 - /calls/<call id>/callLegs への POST
 - /callLegs/<callLeg ID> で GET
 - /callLegs/<callLeg ID> への PUT
 - /calls/<call id>/participants への POST
 - /callLegProfiles への POST
 - /callLegProfiles/<call leg profile id> で GET
 - /callLegProfiles/<call leg profile id> への PUT

特定の参加者にチャットメッセージを送信できるように API パラメータを強化

- `chatAllowed:`
 - `/calls` への POST
 - `/calls/<call id>` への PUT
 - `/calls/<call id>` で GET
 - `/callProfiles` への POST
 - `/callProfiles/<call profile id>` への PUT
 - `/callProfiles/<call profile id>` で GET
- `chatContributionAllowed:`
 - `/calls/<call id>/participants` への POST
 - `/calls/<call id>/callLegs` への POST
 - `/callLegs/<call leg id>` で GET
 - `/callLegs/<call leg id>` への PUT
 - `/callLegProfiles` への POST
 - `/callLegProfiles/<call leg profile id>` への PUT
 - `/callLegProfiles/<call leg profile id>` で GET

2.3 MMP の追加および変更の概要

バージョン 3.8 では、このセクションで説明する MMP の追加をサポートしています。

Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager/IMP Server 間のセキュアな通信を実現

Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager/IMP Server 間の TLS 検証に使用するコマンドを以下に示します。

コマンド/例	説明
<code>callbridge ucm certs <cert- bundle></code>	Cisco Unified Communications Manager の CA の信頼できる証明書を追加します。
<code>callbridge ucm verify <enable/disable></code>	Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS 検証を有効または無効にします。
<code>callbridge ucm certs none</code>	Meeting Server と Cisco Unified Communications Manager 間の TLS 検証用に追加された証明書を削除します。
<code>callbridge imps certs <cert- bundle></code>	IMP Server に CA の信頼できる証明書を追加します。
<code>callbridge imps 検証 <enable/disable></code>	Meeting Server と IMP Server 間の TLS 検証を有効または無効にします。
<code>callbridge imps certs none</code>	Meeting Server と IMP Server 間の TLS 検証用に追加された証明書を削除します。

Web アプリケーション セッション タイムアウトの構成

管理者は、次のコマンドを使用して、Web アプリケーション セッションのタイムアウトを時間単位で設定できます。

コマンド/例	説明
<code>callbridge wc3jwt expiry <expiry time in hours></code>	<p>Web アプリケーションのセッションタイムアウトを時間単位で設定します。 1 ~ 24 の整数を 指定できます。設定しない場合のデフォルト値は 24 です。</p> <hr/> <p>注：変更を適用するには、Call Bridge を再起動します。</p>

2.4 関連するユーザー マニュアル

以下のサイトに、インストール、計画と導入、初期設定、製品の操作などに関するドキュメントが掲載されています。

- ・ リリースノート（最新および以前のリリース）：
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/meeting-server/products-release-notes-list.html>
- ・ インストール ガイド（VM インストール、Meeting Server 2000および Installation Assistant の使用を含む）：
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/meeting-server/products-installation-guides-list.html>
- ・ 構成ガイド（展開計画と展開、証明書ガイドライン、簡素化されたセットアップ、ロード バランシングのホワイト ペーパー、管理者向けクイック リファレンス ガイドを含む）：
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/meeting-server/products-installation-and-configuration-guides-list.html>
- ・ プログラミング ガイド（API、CDR、イベント、MMP リファレンス ガイド、カ スタマイズ ガイドラインなど）：
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/meeting-server/products-programming-reference-guides-list.html>
- ・ オープン ソース ライセンス情報：
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/meeting-server/products-licensing-information-listing.html>
- ・ Cisco Meeting Server FAQ：<https://meeting-infohub.cisco.com/faq/category/25/cisco-meeting-server.html>
- ・ Cisco Meeting Server 相互運用性データベース：<https://tp-tools-web01.cisco.com/interop/d459/s1790>

3 Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.8 のアップグレード、ダウングレード、および デプロイ

このセクションでは、Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.7 からアップグレードすることを前提としています。それよりも前のバージョンからアップグレードする場合は、この Cisco Meeting Server 3.8 リリースノートの手順を実行する前に、3.7 リリースノートの手順を実行して 3.7 に更新します。これは、Meeting Server に接続している Cisco Expressway がある場合は特に重要です。

注： Cisco は、3.7 以前のソフトウェアリリースからのアップグレードをテストしていません。

Cisco Meeting Server 2000、Cisco Meeting Server 1000、または以前に構成された VM デプロイにインストールされている Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョンを確認するには、MMP コマンドバージョンを使用します。

VM を初めて構成する場合は、『[Cisco Meeting Server 仮想化導入設置ガイド](#)』の手順を実行します。

3.1 リリース 3.8 へのアップグレード

このセクションの手順は、クラスタ化されていない Meeting Server デプロイに適用されます。クラスタ化されたデータベースを使用したデプロイについては、クラスタ化されたサーバーをアップグレードする前に、この [FAQ](#) の指示をお読みください。

注意： Meeting Server をアップグレードまたはダウングレードする前に、`backup snapshot <filename>` コマンドを使用して構成のバックアップを作成し、バックアップファイルを別のデバイスに安全に保存する必要があります。詳細については、『[MMP コマンド リファレンス ガイド](#)』を参照してください。アップグレード/ダウングレードプロセスが生成した自動バックアップファイルに依存しないでください。アップグレード/ダウングレードが失敗した場合にアクセスできない可能性があります。

注： クラスタ化されたデータベースを展開している場合は、Meeting Server をアップグレードする前に、`database cluster remove` コマンドを使用してすべてのノードのクラスタ化を解除します。ユーザーは、ノードのクラスタ化を解除して Meeting Server をアップグレードし、MMP コマンドを使用してノードをクラスタ化する必要があります。手順の詳細については、『[クラスタのアップグレードに関する FAQ](#)』を参照してください。

ファームウェアのアップグレードは 2 段階のプロセスです。最初に、アップグレードされたファームウェアイメージをアップロードし、次に、アップグレードコマンドを発行します。これによりサーバーが再起動します。再起動プロセスは、サーバーで実行中のすべてのアク

ティブコールが中断されます。よって、ユーザーへの影響を回避するため、この段階は、適切なタイミングで実行する必要があります。そうでない場合、ユーザーに事前に警告する必要があります。

これら手順を実行してサーバーに最新のファームウェアをインストールする：

1. シスコ Web サイトの [\[ソフトウェアダウンロード \(Software Download\)\]](#) ページで適切なアップグレードファイルを取得します。

Cisco_Meeting_Server_3_8_CMS2000.zip

このファイルは、サーバーにアップロードする前に単一の upgrade.img ファイルに解凍する必要があります。このファイルを使用して、Cisco Meeting Server 2000 サーバーをアップグレードします。

upgrade.img ファイルのハッシュ (SHA-256)：

44b262e289550e2a2ac8042a2a3e0c30f337a52e72bbbfe91c2cb36537b145

67 **Cisco_Meeting_Server_3_8_vm-upgrade.zip**

このファイルは、サーバにアップロードする前に単一の upgrade.img ファイルに解凍する必要があります。このファイルを使用して、Cisco Meeting Server 仮想マシンの展開をアップグレードします。

upgrade.img ファイルのハッシュ (SHA-256)：

7120df4aa7faefe07c27e316dcf24f2862e74ee1b6a9d668ea73c0492d35ab42

Cisco_Meeting_Server_3_8.ova

このファイルを使用して、VMware から新しい仮想マシンを展開します。

vSphere7.0 以上の場合、Cisco_Meeting_Server_3_8_vSphere-7_0.ova のハッシュ (SHA-512)：

5a350ff84abb8ccc136e164ccfd3f112c35f4900d4a9b15eb9d29f25ab32baf6b497c4644e888865cb590fb4118a7483f73454f94ab3a2c645874031a22cf971

2. OVA ファイルを検証するために、ダウンロードの説明にカーソルを合わせると表示されるポップアップボックスに、3.8 リリースのチェックサムが表示されます。さらに、上記の SHA-512 ハッシュ値を使用して、ダウンロードの整合性を確認することもできます。

注：VMware は ESXi 6.x バージョンのサポートを終了しており、Meeting Server は 6.x バージョンではテストされません。このリリースのバージョン 3.8 は、ESXi 7.0.x のみをサポートしています。今後のリリースでは、ESXi 8.0 のサポートが追加される予定です。

3. SFTP クライアントを使用して、IP アドレスを使用して MMP にログインします。ログイン情報は、MMP 管理者アカウントに設定されたログイン情報になります。Windows を使用している場合は、WinSCP ツールを使用することをお勧めします。

注：ファイル転送に WinSCP を使用している場合、転送設定オプションが「テキスト」ではなく「バイナリ」であることを確認してください。誤った設定を使用すると、転送されたファイルが元のファイルよりもわずかに小さくなり、アップグレードが正常に行われなくなります。

注：

- a) MMP のインターフェイスの IP アドレスは、iface a MMP コマンドで確認できます。
 - b) SFTP サーバーは、標準ポート 22 で実行します。
-

4. ソフトウェアをサーバー/仮想化サーバーにコピーします。
5. アップグレードファイルを検証するには `upgrade list` コマンドを発行します。
 - a. MMP への SSH 接続を確立し、ログインします。
 - b. `upgrade list` コマンドを実行して、使用可能なアップグレードイメージとそのチェックサムを出力します。

```
upgrade list
```
 - c. このチェックサムが上記のチェックサムと一致していることを確認します。
6. アップグレードを適用するには、前の手順の MMP への SSH 接続を使用し、`upgrade` コマンドを実行してアップグレードを開始します。
 - a. `upgrade` コマンドを実行して、アップグレードを開始します。

```
upgrade <image_name>.img。例：upgrade upgrade_spa.img
```
 - b. サーバー/仮想化サーバーは自動的に再起動します。処理が完了するまで 10 分かかります。
7. MMP への SSH 接続を再確立し、次を入力して、Meeting Server がアップグレードされたイメージを実行していることを確認します。
バージョン
8. 利用可能な場合は、カスタマイズ アーカイブ ファイルを更新します。
9. アップグレードが完了しました。

3.2 ダウングレード

アップグレード処理中またはアップグレード処理後に予期しないことが発生した場合は、以前のバージョンの Meeting Server ソフトウェアに戻すことができます。通常のアップグレード手順を使用して、MMP `upgrade` コマンドを使用して、Meeting Server を必要なバージョンに「ダウングレード」します。

1. ソフトウェアをサーバー/仮想化サーバーにコピーします。
2. ダウングレードを適用するには、MMP への SSH 接続を使用し、`upgrade <filename>` コマンドを実行してダウングレードを開始します。
サーバー/仮想サーバーが自動的に再起動します。プロセスが完了し、サーバーのダウングレード後に Web 管理が使用可能になるまで 10 ～ 12 分かかります。
3. [Web 管理 (Web Admin)] 画面にログインし、[ステータス (Status)] > [全般 (General)] の順に選択し、[システムステータス (System status)] の下に新しいバージョンが表示されていることを確認します。
4. サーバーで MMP コマンド `factory_reset app` を使用し、工場出荷時設定からの再起動を待ちます。
5. MMP コマンド `backup rollback <name>` を使用して、古いバージョンの構成バックアップを復元します。

注：`backup rollback` コマンドは、既存の構成、`cms.lic` ファイル、およびシステム上のすべての証明書と秘密キーを上書きし、Meeting Server を再起動します。したがって、注意して使用する必要があります。バックアップのロールバック プロセス中に上書きされるため、既存の `cms.lic` ファイルと証明書を事前にコピーしてください。`.JSON` ファイルは上書きされないため、上書きする必要はありません

Meeting Server が再起動して、バックアップ ファイルが適用されます。

クラスタ展開の場合、クラスタ内の各ノードに対して手順 1 ～ 5 を繰り返します。

6. 最後に、次のことを確認します。

- 各 Call Bridge の Web 管理インターフェイスで coSpaces のリストを表示できること。
- ダイアルプランが無傷であること。
- Web 管理およびログファイルに障害状態が報告されていないこと。
- SIP およびシスコ ミーティング アプリケーション（サポートされている場合は Web Bridge）を使用して接続できる

これで、Meeting Server のダウングレード展開は完了です。

3.3 Cisco Meeting Server の展開

Meeting Server の展開方法の説明をシンプルにするため、3 つのモデルで展開を説明します。

- 単一統合型 Meeting Server：すべての Meeting Server コンポーネント（Call Bridge、Web Bridge 3、データベース、レコーダー、アップローダ、ストリーマ、TURN サーバー）が使用可能です。Call Bridge とデータベースは自動的に有効化されますが、それ以外のコンポーネントは展開の必要性に応じて個別に有効化することができます。有効化されたすべてのコンポーネントが単一のホストサーバー上に存在します。
- 単一分散型 Meeting Server：このモデルでは、DMZ 内のネットワーク エッジに配置された Meeting Server 上で TURN サーバー、Web Bridge 3 および MeetingApps が有効化され、それ以外のコンポーネントは内部（コア）ネットワークに配置された別の Meeting Server 上で有効化されます。
- 3 つ目のモデルでは、展開環境の拡張性と復元力を高めるため、複数の Meeting Server をまとめてクラスタ化して展開します。

これらの 3 つのモデルすべてを網羅した導入ガイドは、[こちら](#)で参照できます。個々の導入ガイドには、別に証明書ガイドラインのドキュメントが付属しています。

3.3.1 注意点

3.3.1.1 Cisco Meeting Server 2000

Cisco Meeting Server 2000 には、Call Bridge、Web Bridge 3、およびデータベースコンポーネントのみが含まれます。これは、単一のサーバーとして、または複数のサーバーのカスケードとして、内部ネットワークに展開するのに適しています。Cisco Meeting Server 2000 は DMZ ネットワークに展開しないでください。外部の Cisco Meeting Server Web アプリケーションユーザー向けにファイアウォール トラバーサルをサポートが必要な場合は、代わりに次のいずれかも展開する必要があります。

- 内部ネットワークに Cisco Expressway-C、DMZ に Expressway-E、または
- TURN サーバーを有効にして、DMZ に別の Cisco Meeting Server 1000 または仕様ベースの VM サーバーを展開します。

3.3.1.2 Cisco Meeting Server 1000 および仕様ベースの VM サーバー

- Cisco Meeting Server 1000 および仕様ベースの VM サーバーは、Cisco Meeting Server 2000 よりもコールキャパシティは少なくなりますが、すべてのコンポーネント（Call Bridge、Web Bridge 3、データベース、レコーダー、アップローダ、ストリーマ、TURN サーバー）を各ホストサーバー上で使用できます。Web Bridge 3、レコーダー、アップローダ、ストリーマ、および TURN サーバーは、稼働前に有効化する必要があります。
- OVA を vCenter にアップロードしてデプロイすると、[発行元 (Publisher)] フィールドに [Trusted certificate (信頼できる証明書)] と表示されます。OVA のインポート時に、無効な証明書と信頼できない証明書に関する警告が表示された場合は、こちらの記事 (<https://kb.vmware.com/s/article/84240>) を参照してください。OVA への署名に使用された証明書に対応する中間証明書とルート証明書を VECS ストアに追加する必要があります。中間証明書またはルート証明書の取得、またはその他の問題については、シスコテクニカルサポートにお問い合わせください。

4 Cisco Meeting Server Web アプリケーション


本書のこのセクションでは、Cisco Meeting Server Web アプリケーションのこのリリースの新機能や変更点について記載されています。

4.1 Cisco Meeting Server Web アプリケーションの新機能

Web アプリケーションソフトウェアのバージョンでは、以下の新機能と変更が導入されています。

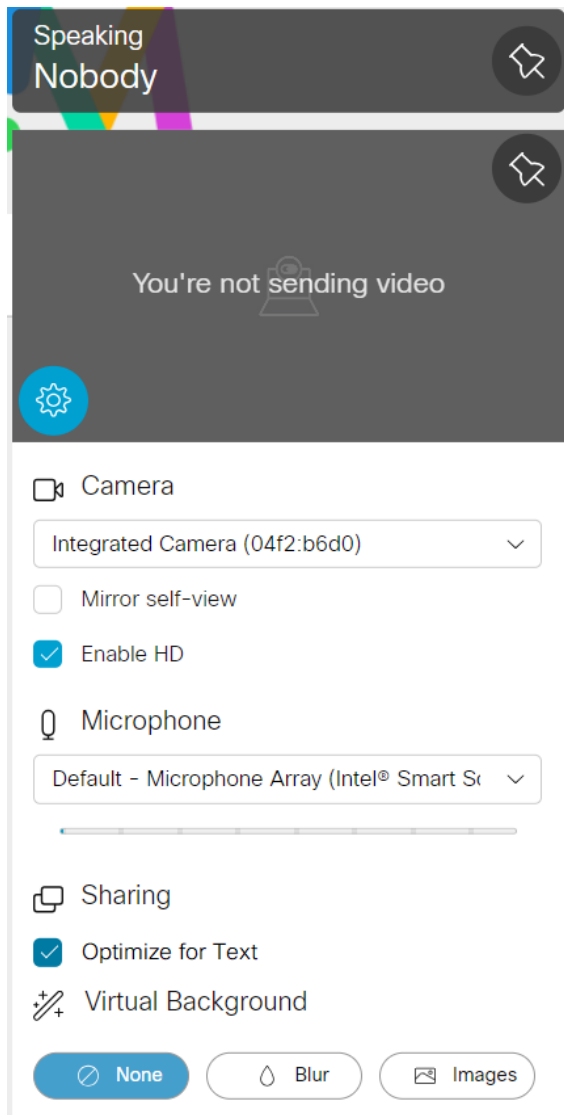
- [会議でのコンテンツ共有の最適化](#)
- [会議内アンケートの作成](#)
- [改善された仮想背景のパフォーマンス](#)
- [会議中のプライベートチャット](#)
- [チェコ語のサポート](#)
- [UI 変更](#)
- [ユーザー補助の向上](#)

4.1.1 会議でのコンテンツ共有の最適化

バージョン 3.8 では、Web アプリケーションユーザーは、Web アプリケーション会議でコンテンツを共有しながら、画面解像度を柔軟に最適化できます。この機能を実装するために、**[テキストの最適化 (Optimize for Text)]** が、 **[共有 (Sharing)]** セクションのセルフビューの設定メニューに追加されます。


画面共有中に、参加者がこのオプションをチェックすると、Web アプリケーションは、Meeting Server で管理者が設定した画面共有解像度をオーバーライドし、画面が 1080p 解像度で共有されます。オフのままにすると、コンテンツは管理者が設定した解像度に従って共有されます。変更されるまで、**[テキスト用に最適化 (Optimize for Text)]** の設定が保存され、以降の会議で使用されます。


注：画面解像度を有効にするには、参加者は、**[テキストを最適化 (Optimize for Text)]** を選択した後の画面の共有を開始する必要があります。また、Web アプリケーションは、画面共有を再開するように画面にメッセージを表示して参加者に通知します。



注：画面の解像度は、画面の共有中に送信者の画面にのみ設定されます。

4.1.2 会議内アンケートの作成

バージョン 3.8 以降では、適切な権限を持つ参加者が Web アプリケーションを使用して会議中にアンケートを作成できるようになりました。会議中にアンケートを作成して参加するための会議中メニューオプションとしてサイドパネルに新しい  [アンケート (Surveys)] アイコンが追加されました。

注： ミーティングサーバーで [アンケート (Surveys)] アイコンが参加者に表示されるのは、ミーティングでこの機能が有効になっている場合のみです。

アンケートは会議の主催者が作成して開始できます。Web アプリケーション会議では、一度にアクティブにできるアンケートは 1 つのみです。各アンケートには最大 5 つの質問を含めることができます。各質問には、最低 2 つ、最大 4 つの選択肢があり、参加者はそのうちの 1 つを選択する必要があります。複数の回答を入力したり、自由形式のテキストで回答したりすることはできません。

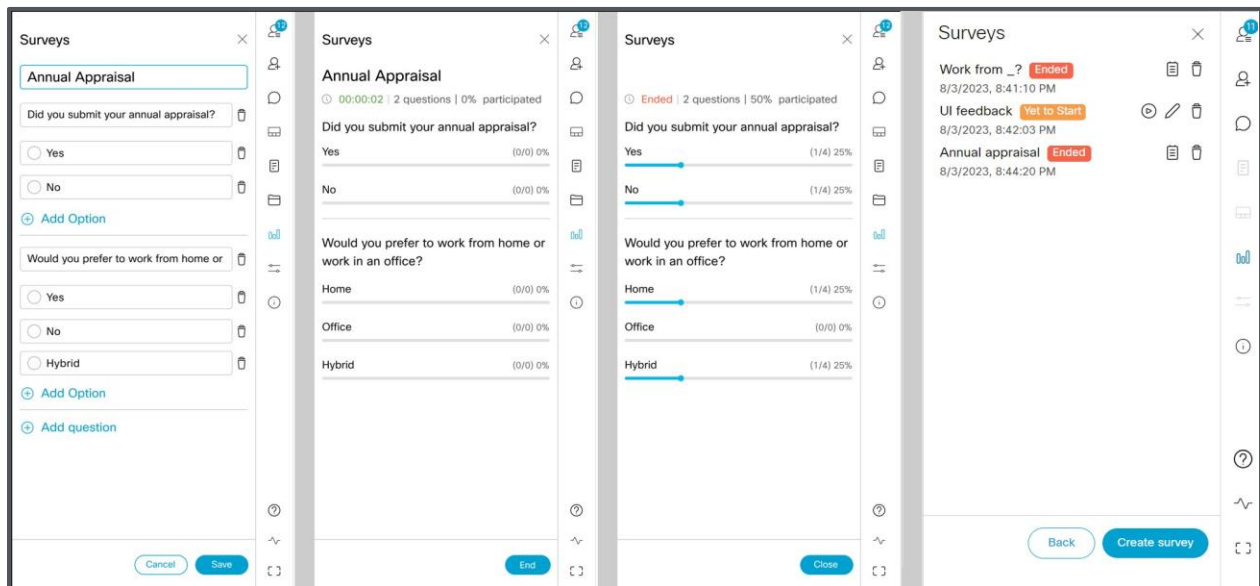
[アンケート (Surveys)] アイコンの赤い点は、新しいアンケートがアクティブであることを示します。会議の主催者がアンケートを開始すると、Web アプリケーションは会議の参加者にも通知します。

アンケートを作成するには、サイドペインで [アンケート (Surveys)] を選択します。

- [アンケートダッシュボード (Survey Dashboard)] > [アンケートの作成 (Create survey)] の順に選択します。アンケートのタイトル、質問、およびオプションを入力し、[保存 (Save)] を選択します。

注：二重引用符" は、アンケートのタイトル、質問、オプションには使用できません。" が使用されている場合は、参加者は、新しいアンケートを保存したり、作成したりできません。

- [起動 (Launch)] を選択して、保存したアンケートをアクティブ化します。参加者は、会議の主催者によって開始された場合にのみ、アンケートを表示できます。








会議の主催者：


適切な権限を持つ会議の主催者は、アンケートを作成し、アンケート結果を表示できます。

- Web アプリケーション会議には、複数の主催者を含めることができます。アンケートの作成者以外の主催者もアンケートに参加できます。
- アンケートを保存/編集/削除/起動/終了できるのは、アンケートを作成した主催者のみです。アンケートを開始すると、他の主催者は進行中のアンケートを終了して結果を確認することしかできません。
- 組織は、複数のアンケートを作成して、次の会議中に使用するために保存できます。
- 会議の主催者がアンケートを作成して起動した後、会議から切断された場合、主催者は会議に再参加し、進行中/保存済みのアンケートに対して引き続きすべてのアクションを実行できます。

会議の主催者は、 [アンケート (Surveys)] ウィンドウで次のアクションを実行できます。

アイコン	説明	誰が使用できますか？
	アンケートの起動 - 保存済みアンケートを起動します。	アンケートを作成した会議の主催者。
	アンケートの終了 - 実行中のアンケートを終了します。	会議の主催者のいずれか。
	結果の表示 - アンケート結果を表示します。	アンケートの終了後、すべての主催者が結果を確認できます。 注： アンケートの回答は匿名です。主催者は、参加者の名前や参加者がアンケートで選択したオプションを特定することはできません。
	編集 - アンケートの質問とオプションを編集します。	アンケートを作成した会議の主催者。 注： アンケートは、アンケートを開始する前にのみ編集できます。
	削除 - 質問、オプションまたはアンケートを削除します。	アンケートを作成した会議の主催者。

参加者：

参加者は、アンケートに参加するかどうかを選択できます。 に参加するには、[アンケート (Surveys)] > [アンケートを実施 (Take Survey)] の順に選択し、質問に対して指定されている回答を選択します。[回答を送信 (Submit your response)] を選択して提出します。

- 参加者は、質問に対して提供されているオプションからのみ選択できます。フリーテキストの入力と複数のオプションの選択はサポートされていません。
- アンケートの提出後、参加者は、選択したオプションや選択肢の変更はできません。
- 参加者は、アンケートの開始後に会議に参加/再参加しても、終了するまでいつでもアンケートに参加できます。
- 会議に複数の主催者がいる場合、アンケートを作成した主催者はアンケートに参加できません。ただし、他の主催者はアンケートに参加できます。
- サインインしているユーザーとは別に、ゲストもアンケートに参加できます。

Surveys

Annual Appraisal

Did you submit your annual appraisal?

☐ Yes

☐ No

Would you prefer to work from home or work in an office?

☐ Home

☐ Office

☐ Hybrid

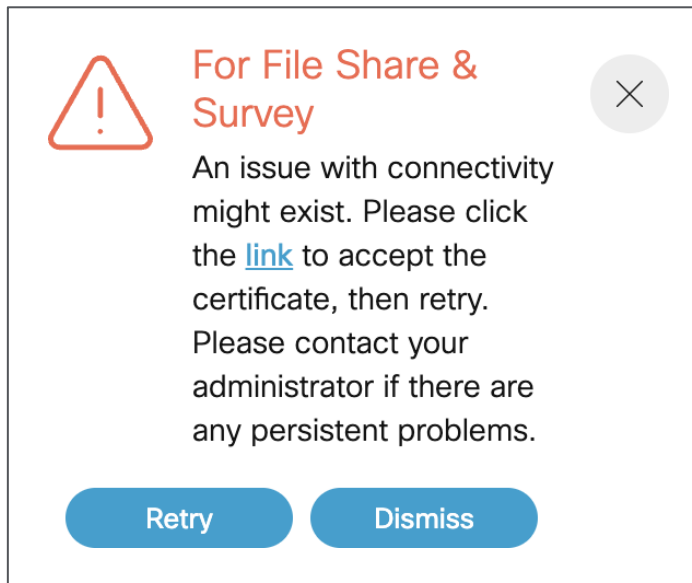
Submit your response

Meeting Server で `surveyAllowed` API が `true` に設定されている場合、Web アプリケーションの参加者に [アンケート (Surveys)] アイコンが表示されます。`surveyOpsAllowed` API が `true` に設定されている参加者は、会議中にアンケートを作成し、結果を表示できます。詳細については、『Cisco Meeting Server API ガイド』を参照してください。

4.1.2.1 アンケートとファイル共有機能に関する重要事項

証明書が検証されていない場合、またはサービスに到達できない場合は、アンケートやファイル共有などの Web アプリケーションの会議中機能が意図したとおりに動作しない可能性があります。このようなシナリオでは、Web アプリケーションに警告メッセージが表示されます。Web アプリケーションユーザーは、警告メッセージにあるリンクから証明書を検証することができます。

注：参加者がブラウザで初めて新しい Web アプリケーション機能を使用する場合にのみ、証明書を検証する必要があります。



Web アプリケーション会議中に上記のエラーが表示された場合は、

1. ポップアップに表示されるリンクをクリックします。
2. 接続が確立されている場合は、新しいタブが開き、{"ping": "pong!"} と表示されます。
3. Web アプリケーションタブを開き、ポップアップで **[再試行 (Retry)]** を選択してサービスを回復します。問題が解決しない場合は、Meeting Server 管理者に問い合わせてください。

4.1.3 改善された仮想背景のパフォーマンス

[仮想背景 (Virtual Background)] 機能を有効にすると、Web アプリケーション参加者は、会議中に背景を変更したりぼやかすことができます。バージョン 3.8 では、アップグレードされた最新のビデオ AI ライブラリのサポートにより、仮想背景/ぼかしのパフォーマンスがさらに向上しています。これにより、仮想背景/ぼかしの適用が高速化され、参加者のビデオのピクセル化が減少します。

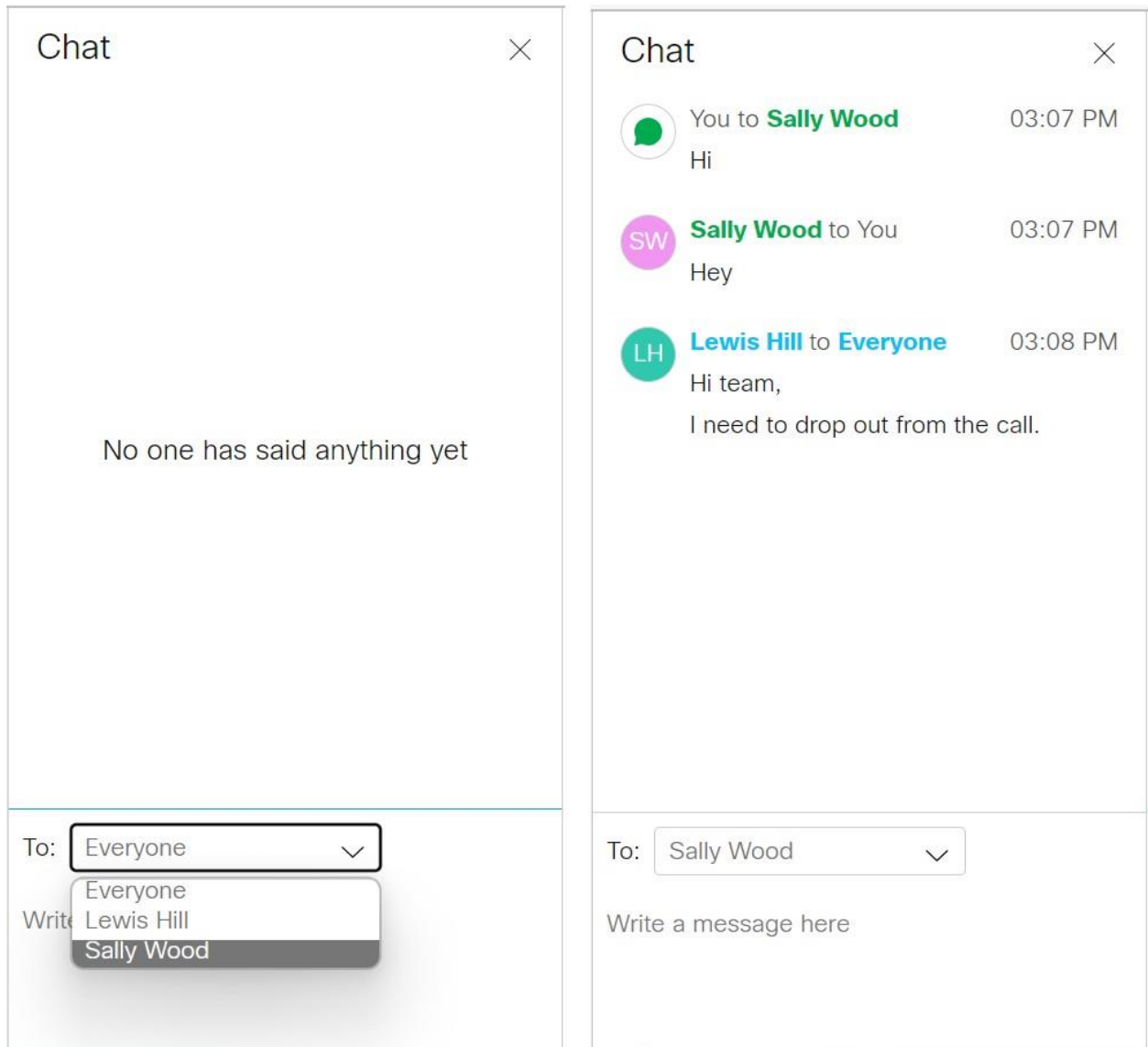
この機能は、Windows および macOS デバイスの Google Chrome、Mozilla Firefox、および Microsoft Edge ブラウザでサポートされています。

注：

- 仮想背景は、Graphics Processing Unit (GPU) 搭載システムで最適に機能します。
- アップグレードされたライブラリは、Web アプリケーションに対してのみ実装されます。SIP 参加者は、エンドポイントでローカルで使用可能なイメージを適用できます。

4.1.4 会議中のプライベートチャット

[チャット (Chat)] 機能を使用すると、Web アプリケーション参加者は、同じ会議に参加している他の参加者にメッセージを送信できます以前のバージョンの Web アプリケーションでは、チャットメッセージは会議に参加しているすべての参加者にブロードキャストされ、プライベートではありませんでした。バージョン 3.8 以降では、Web アプリケーションの参加者は、[チャット (Chat)] ウィンドウの **[宛先: (To:)]** ドロップダウンオプションを使用して、チャットメッセージを会議参加者全員に送信するか、特定の参加者に送信するかを選択できます。



会議の他の参加者は、送信者と受信者の間で行われたプライベートチャットを見ることはできません。チャットメッセージは会議中のみ利用でき、会議の前後は利用できません。参加者が会議から退出したり、再度参加した場合、またはブラウザを更新した場合は、チャットメッセージは消えます。管理者は、[チャット (Chat)] 機能を有効にできる通話と、チャットメッセージを送信できる参加者を制御できます。

注： この機能は Web アプリケーションでのみサポートされているため、チャットウィンドウの [宛先： (To:)] ドロップダウンリストには Web アプリケーションの参加者のみが表示されます。

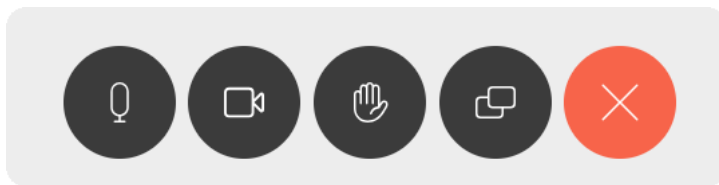
Meeting Server の `CallProfiles` で `chatAllowed` API が、True に設定されている場合、会議内のすべての Web アプリケーション参加者に対して、[チャット (Chat)] ウィンドウでドロップダウンオプションが表示されます。詳細については、『Meeting Server API ガイド』を参照してください。

4.1.5 チェコ語のサポート

以前のバージョンでは、Web アプリケーションは 22 言語でサポートされていました。バージョン 3.8 から、Web アプリケーションはチェコ語もサポートします。現在ユーザーは、Web アプリケーションの言語リストで、Čeština を選択できます。

4.1.6 UI 変更

バージョン 3.8 から、以前は [設定 (Settings)] オプションにあった [ビデオ切り替え (video toggle)] アイコン  が、簡単にアクセスできるように [マイク切り替え (mic toggle)] アイコン  の横に移動しました。



4.1.7 ユーザー補助の向上

バージョン 3.8 では、Web アプリケーションは次のユーザー補助の改善をサポートしています。

- ・ ユーザーは、キーボードの上下矢印キーを使用して、スペース、参加者、会議中のメニューパネルなどのリスト間を移動できるようになりました。
- ・ スクリーンリーダーは、画面に表示されているすべてのタイトル、通知、警告、ステータスメッセージを読み上げるようになりました。

4.2 Web アプリケーションの使用

Web アプリケーションでは、スペースで音声とビデオを使用して会議に参加することができます。会議で画面またはプレゼンテーションを共有することもできます。

スペースに対するメンバーの追加または削除を実行できます。また、組織内外のユーザーを会議に招待することもできます。

注：スペースとは、ユーザーのグループが会議のためにいつでも使用できる永続的な仮想会議室です。詳細については、「Web アプリケーションのオンラインヘルプ」または『ユーザーガイド』を参照してください。

デスクトップ、モバイル デバイス、またはタブレットで、サポートされている任意のブラウザから Web アプリケーションを使用できます。詳細については、[「ブラウザの一覧」](#)を参照してください。

Web アプリケーションを使用する詳細な手順については、「Cisco Meeting Server Web アプリケーションのオンラインヘルプ」または『ユーザーガイド』を参照してください。

必要に応じて、次のいずれかのオプションを選択できます。

- Web アプリケーションにサインイン：Web アプリケーションにサインインして、会議への参加、メンバーになっているすべてのスペースのリストの表示、参加方法の表示を行えるほか、招待の詳細情報をコピーして会議に招待することができます。適切なアクセス権限を持っている場合は、事前設定済みのテンプレートを使用してスペースを作成し、スペースを編集または削除することができます。
- 会議に参加：会議に招待された場合は、このオプションを使用します。招待には、会議 ID、パスコード（オプション）、またはビデオ アドレス（URI）などの詳細情報を含める必要があります。
- 会議をスケジュールする：会議をスケジュールするには、ホームページで [会議をスケジュール（Schedule meeting）] をクリックします。名前を入力し、会議に使用するスペースを選択します。会議は、1 つのインスタンスでスケジュールすることも、毎日、毎週、または毎月繰り返すようにスケジュールすることもできます。選択したスペースのすべてのメンバーを追加するか、選択した参加者を追加して、会議の役割を構成できます。

4.3 テスト済のブラウザバージョン

表 1 に、特定のバージョンの Web アプリケーションのリリース時に Web アプリケーションについてテストされたブラウザの一覧を示します。

ブラウザの最新バージョンを使用することを常に推奨します。

注：Google Chrome や Mozilla Firefox などの特定のブラウザは、最新バージョンに自動的に更新されることに注意してください。次の表は、Cisco Meeting Server のバージョンの正式リリース時にテストされたバージョンのブラウザを示しています。これは、以前のバージョンのブラウザでこの特定のリリースがテストされていないことを意味します。

シスコでは、すべてのブラウザの最新の公開バージョンに対して、Cisco Meeting Server の各メジャーリリースの最新メンテナンスリリースをテストして、すべてのリリースを互換性のある状態に保ち、問題を検出した場合にはできるだけ早期に修正するように努力しております。

表 2：ブラウザとバージョンでのテスト済みの Cisco Meeting Server Web アプリケーション

Browsers	バージョン
Google Chrome (Windows、macOS、Android)	116.0.5845.140
Mozilla Firefox (Windows)	116.0.3
Chromium ベースの Microsoft Edge (Windows)	116.0.1938.62
macOS 用 Apple Safari	16.6 (18615.3.12.11.2)
iOS 用 Apple Safari	16.6
Yandex (Windows)	23.7.3.823

注：Web アプリケーションは、レガシーの Microsoft Edge ではサポートされていません。

注：これらのサポートされているブラウザを実行している仮想マシン（VM）では、Web アプリケーションはサポートされていません。

iOS 13 以降および macOS 10.15 以降を使用しているユーザーに対する重要事項

iOS 13 以降および macOS 10.15 以降の Safari でユーザーが Web アプリケーションを使用できるようにするためには、次の場所に記載されている要件を遵守するように webbridge3 を適切に設定する必要があります：<https://support.apple.com/en-us/HT210176>。

これらの要件が満たされていない場合、ユーザーは Safari でアプリケーションを開くことができません。

MacOS 10.15 以降の Chrome 上での画面共有に関する重要事項

MacOS バージョン 10.15 (Catalina) 以降では、Chrome 上で実行されているアプリケーションから画面またはアプリケーションを共有するには、アクセス許可を有効にする必要があります。手順は以下のとおりです。

1. [Apple] メニューから [システム環境設定 (System Preferences)] を選択します。
2. [セキュリティとプライバシー (Security & Privacy)] をクリックします。
3. 上部にある [プライバシー (Privacy)] タブをクリックします。
4. 左側のカラムで下方向にスクロールし、[画面収録 (Screen Recording)] をクリックします。
5. Chrome が選択されていることを確認します。Chrome を再起動します。

4.3.1 Safari ブラウザのユーザー補助設定に関する重要事項

デフォルトでは、Safari ブラウザで Tab キーを使用して UI 要素を移動することができませんが、代わりに Option + Tab キーを使用できます。これは、Safari の環境設定で次のように設定できます。

Safari ブラウザのメニューから [Safari] > [環境設定 (Preferences)] > [詳細設定 (Advanced)] > [ユーザー補助 (Accessibility)] > [Tab キーを押したときに Web ページ上の各項目を強調表示 (Press Tab to highlight each item on a web page)] に移動して、環境設定を変更します。

4.3.2 Microsoft Edge のグループポリシー設定に関する重要な注意事項

WebRtcLocalhostIpHandling - WebRTC によるローカル IP アドレスの公開を制限するグループポリシーが Microsoft Edge ブラウザに適用されている場合は、次のポリシーオプションのいずれかのみを使用してください。

- `AllowAllInterfaces` (デフォルト) または
- `AllowPublicAndPrivateInterfaces` (default_public_and_private_interfaces)

他のオプションは、接続の問題を引き起こす可能性があります。

4.4 製品マニュアル

Web アプリケーションの『ユーザーガイド』などのエンドユーザーガイドや、視覚的なハウツーガイドは、次の場所で入手できます。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/cisco-meeting-app/products-user-guide-list.html>

5 バグ検索ツール、解決済みの問題と未解決の問題

シスコのバグ検索ツールを使用して、問題と利用可能な回避策の説明など、Cisco Meeting Server とWeb アプリケーションに関する解決済みの問題および未解決の問題に関する情報を探すことができます。これらのリリース ノートに示されている ID によって、それぞれの問題の説明に直接移動できます。

1. Web ブラウザを使用して、[\[バグ検索ツール \(Bug Search Tool\)\]](#) に移動します。
2. cisco.com の登録ユーザー名とパスワードでログインします。

このマニュアルに記載された問題に関する情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. **[検索 (Search)]** フィールドにバグ ID を入力し、**[検索 (Search)]** をクリックします。

ID がわからない場合に情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. **[検索 (Search)]** フィールドに製品名を入力して **[検索 (Search)]** をクリックするか、**[製品 (Product)]** フィールドで **[シリーズ/モデル (Series/Model)]** を選択し、**「Cisco Meeting Server」** と入力し始めます。次に、**[リリース (Releases)]** フィールドで **[これらのリリースで修正済み (Fixed in these Releases)]** を選択して、たとえば **「3.8」** とリリースを入力して検索します。
2. 表示されたバグのリストから、**[変更日 (Modified Date)]**、**[ステータス (Status)]**、**[重大度 (Severity)]**、**[評価 (Rating)]** ドロップダウンリストを使用してリストをフィルタリングします。

バグ検索ツールのヘルプページには、バグ検索ツールの使用に関する詳細情報があります。

5.1 Cisco Meeting Server で解決された問題

以前のバージョンで発生し 3.8 で修正済みの問題

シスコの識別子	まとめ
CSCwd25525	CMS2K TLS syslog の信頼が一貫して機能しない
CSCwd06315	SIP エンドポイントで設定された分散型コールで、WebRTC ユーザーが静的コンテンツを含む Chrome タブを共有すると、SIP 参加者が数秒間断続的にグレー画面を表示した後、復元できます。

5.2 Cisco Meeting Server Web アプリケーションで解決された問題

次の表に、以前のバージョンで発生した問題のうち 3.8 で修正された問題の一覧を示します。

シスコの識別子	まとめ
CSCwf87693	24 万人のユーザーに対応する Meeting Server 2000 のスペースでユーザーを検索または追加できない。 注：Web アプリケーションで会議をスケジュール中に、参加者の E メールアドレスを直接検索に貼り付けた場合、ユーザー検索に時間がかかる場合があります。
CSCwf43552	会議中に、Web アプリケーションの参加者がプレゼンテーションを行っているときに、SIP の参加者が画面共有を引き継いだ場合、Web アプリケーションの参加者は SIP 参加者の画面共有を見ることができません。
CSCwf02530	スケジューラを使用して参加者を追加しているときに、キーボードのバックスペースボタンを使用して誤ったエントリを削除すると、参加者の検索結果が機能しなくなります。
CSCwe26144	Web アプリケーション スケジューラを使用して会議をスケジュールするときに、参加者の役割が「ロール 1」（デフォルト）として選択されている場合、参加者は [参加 (Join)] ボタンを使用して会議に参加できません。
CSCwd56907	参加者が Google Chrome および Microsoft Edge ブラウザの [通話情報 (Call information)] で [E メールを開く (Open Email)] を選択すると、参加者は Web アプリケーション会議から切断されます。

5.3 Cisco Meeting Server の未解決の問題

次に、Cisco Meeting Server ソフトウェアのこのリリースの既知の問題を示します。詳細が必要な場合は、[バグ検索ツール](#)の [検索 (Search)] フィールドにシスコの識別子を入力してください。

シスコの識別子	まとめ
CSCwf69666	IMPS ノードから誤ったステータスが送信されるため、Meeting Server はセカンダリ IMPS ノードのユーザーの誤ったプレゼンスステータスを断続的に更新します。
CSCwh41791	CMS 2k で、webbridge へのアクセスに断続的に失敗する
CSCwd89530	ctrl+C を使用してパケットキャプチャを適切に停止せずに端末を突然閉じると、CMS が再起動するまでパケットキャプチャを実行できません。

シスコの識別子	まとめ
CSCwb77929	複数の Web Bridge を使用した展開では、Web アプリケーションの参加者は、メモが最初に保存および公開されたのと同じ webbridge に接続されている場合にのみ、会議メモを見ることができます。
CSCwa83782	会議が TMS で自動接続タイプとして予約され、参加者の 1 人が管理対象外のデバイスを介して会議に参加します。会議が開始すると、参加者は CMS/TMS によって呼び出されますが、Meeting Server はしばらくするとその呼び出しを切断します。
CSCvz01886	参加者のロールにビデオとプレゼンテーションを共有する権限がない場合、ロールが変更され、ビデオとプレゼンテーションを共有する権限がある場合、他の参加者がコンテンツを共有するときにプレゼンテーションは表示されません。
CSCvt74033	コンテンツの共有中に、イベントがトリガーとなって Webex Room Panorama が 2 つのビデオ ストリームの送信を 1 つに減らした場合、リモートエンドポイントが Room Panorama から受け取るビデオフレームレートが著しく低下する可能性があります。
CSCvh23039	アップローダコンポーネントは、NFS に保持されているテナント録音では機能しません。

5.3.1 既知の制限事項

- Cisco Meeting Server は、バージョン 3.1 から TURN の短期のログイン情報をサポートしています。この操作モードは、TURN サーバーがバージョン 3.1 以降の Meeting Server TURN サーバーなどの短期のログイン情報もサポートしている場合にのみ使用できます。Expressway で Cisco Meeting Server を使用すると、短期のログイン情報はサポートされません。

5.4 Cisco Meeting Server Web アプリケーションで未解決の問題

シスコの識別子	まとめ
CSCwh48463	参加者がアンケートのタイトル/質問/オプションに "（二重引用符）を入力して [保存 (Save)] を選択すると、アンケートは作成されず、それ以降はアンケートを作成できなくなります。
CSCwh48464	Web アプリケーションの参加者がビデオに仮想背景を適用してからブラウザタブを更新すると、Google Chrome および Mozilla Firefox ブラウザで仮想背景が黒く表示されます。
CSCwc76769	Google Chrome ブラウザで、参加者がビデオにぼかしを適用して Web アプリケーションの会議を退出しても、カメラはオンのままで閉じません。
CSCwa17363	Web アプリケーションでは、Meeting Management のロビーから移動した参加者は、ロビーで待機していても会議の参加者一覧を引き続き表示することができます。
CSCvz01888	会議前にスペースでメンバーのロールが変更された場合、メンバーが会議に参加すると、ロール変更通知が表示されます。

シスコの識別子	まとめ
CSCvu98805	<p>Firefox ブラウザで Web アプリケーションから会議に参加しているときに、2 番目のウィンドウで受信したプレゼンテーションを開いている場合、プレゼンターが共有を停止して再開するか、会議の他の参加者が同時にコンテンツの共有を開始すると、コンテンツが応答しなくなることがあります。これは Firefox ブラウザに関する問題です。詳細については、「https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=1652042」を参照してください。</p> <p>回避策：2 番目のウィンドウを最大化するか、プレゼンテーションウィンドウを閉じてからもう一度開きます。</p>
CSCvt71069	<p>ビデオレイアウト [スピーカー大 (speaker large)] が選択された場合、ウィンドウのサイズが正常に設定されません。</p>

付録 A: Meeting Server プラットフォームメンテナンス

Cisco Meeting Server ソフトウェアが実行されるプラットフォームを維持し、最新の更新プログラムでパッチを適用することが重要です。

6.1 Cisco Meeting Server 1000 およびその他の仮想プラットフォーム

Cisco Meeting Server ソフトウェアは、次のプラットフォームで仮想化された展開として実行されます。

- Cisco Meeting Server 1000
- 仕様ベースの VM プラットフォーム。

6.2 Cisco Meeting Server 2000

Cisco Meeting Server 2000 は、仮想化された展開としてではなく、物理的な展開としての Cisco Meeting Server ソフトウェアを実行する Cisco UCS テクノロジーに基づいています。

注意：プラットフォーム（UCS マネージャによって管理される UCS シャーシおよびモジュール）が最新のパッチで更新されていることを確認して、[『Cisco UCS Manager ファームウェア管理ガイド』](#)の指示に従ってください。プラットフォームが最新の状態に維持されていないと、Cisco Meeting Server のセキュリティが低下する場合があります。

6.3 コールキャパシティ

表 1 に、Cisco Meeting Server ソフトウェアをホストしているプラットフォームのコールキャパシティの比較を示します。

表 3 : Meeting Server プラットフォームのコールキャパシティ

コールのタイプ	Cisco Meeting Server 1000 M5v2	Cisco Meeting Server 1000 M6	Cisco Meeting Server 2000 M5v2	Cisco Meeting Server 2000 M6
Full HD コール 1080p60 ビデオ 720p30 コンテンツ	30	40	218	324
フル HD 通話 (1080p30) ビデオ 1080p30/4K7 コンテンツ	30	40	218	324

コールのタイプ	Cisco Meeting Server 1000 M5v2	Cisco Meeting Server 1000 M6	Cisco Meeting Server 2000 M5v2	Cisco Meeting Server 2000 M6
フル HD コール 1080p30 ビデオ 720p30 コンテンツ	60	80	437	648
HD コール 720p30 ビデオ 720p5 コンテンツ	120	160	875	1296
SD コール 480p30 ビデオ 720p5 コンテンツ	240	320	1250	1875
音声通話 (G.711)	2200	3,000	3,000	3200

表 4 では、単一またはクラスタ構成の Meeting Server のコールキャパシティと、Call Bridge グループ内のコールのロードバランシングを比較しています。

表 4 : クラスタおよび Call Bridges グループの Meeting Server のコールキャパシティ

Cisco Meeting Server プラットフォーム		Cisco Meeting Server 1000 M5v2	Cisco Meeting Server 1000 M6	Cisco Meeting Server 2000 M5v2	Cisco Meeting Server 2000 M6
個別ミーティング サーバーまたはミー ティング クラスタ内のサーバー (注 1、2、3、4) および Call Bridge グループ内 の Meeting Server	1080p30	60	80	437	648
	720p30	120	160	875	1296
	SD	240	320	1250	1875
	音声通話	2200	3,000	3,000	3200
	HD 参加者 会議あたり、サーバ ーあたり	120		450	
	Web アプリケーショ ンの呼び出し キャパシティ (CMS Web エッジの 内部発信 & 外部 発信) :				
	フル HD	60	80	437	437
	HD	120	160	875	875
	SD	240	320	1250	1250
	音声通話	500	500	1250	1250
Call Bridge グループ内 の Meeting Server	サポートされるコー ル タイプ				
	負荷制限	120,000		875,000	

注 1 : クラスタあたりの最大 24 個の Call Bridge ノード。ノード 8 個以上のクラスタ設計は、シスコによる承認が必要です。詳細については、シスコ サポートにお問い合わせください。

注 2 : Call Bridge グループが設定されていないクラスタ Cisco Meeting Server 2000 では、最大コール数の整数倍（700 HD コールの整数倍など）をサポートします。

注 3 : SIP コールまたは Web アプリケーションコールにクラスタあたり最大 21,000 の HD 同時コール（24 ノード X 875 HD コール）が適用されます。

注 4 : クラスタ内の Meeting Server プラットフォームに応じて、1 つのクラスタの会議あたり最大 2600 の参加者。

注 5 : 表 4 は、ビデオ通話で最大 2.5 Mbps-720p5 コンテンツ、音声通話で最大 G.711 のコールレートを想定しています。その他のコーデックや高いコンテンツ解像度/フレームレートは、容量の減少につながります。会議が複数の Call Bridge にまたがる場合は、分散リンクが自動的に作成され、サーバーのコール数とキャパシティに対してもカウントされます。負荷制限の数値は H.264 にのみ使用されます。

注 6 : クラスタでサポートされるコールセットアップレートは、SIP コールでは 1 秒あたり最大 40 コール、Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールでは 20 コールです。

6.4 Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコール キャパシティ

このセクションでは、外部コールおよび混在コールに Web Bridge 3 と Web アプリケーションを使用する展開でのコールキャパシティの詳細について説明します（内部コールのキャパシティについては、表 4 を参照してください。）

6.5 Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールキャパシティ – 外部コール

Expressway (Large OVA または CE1200) は、中規模の Web アプリの要件（つまり 800 コール以下）の導入に推奨されるソリューションです。Expressway (中規模 OVA) は、小規模の Web アプリの要件（つまり 200 コール以下）の導入に推奨されるソリューションです。ただし、Web アプリの規模を大きくする必要がある導入の場合は、バージョン 3.1 から、必要なソリューションとして Cisco Meeting Server Web Edge を推奨します。

Cisco Meeting Server Web エッジソリューションの使用に関する詳細については、『[Cisco Meeting Server 導入ガイド](#)』を参照してください。

外部発信は、クライアントが Cisco Meeting Server の Web エッジ、または Cisco Expressway をリバースプロキシおよび TURN サーバーとして使用して Web Bridge 3 と Call Bridge に到達する場合です。

Expressway を使用して Web アプリケーションのコールをプロキシする場合、Expressway は、表 5 で示されている通り、最大コール数を制限します。

注： Web Bridge 3 と Web アプリケーションを導入する場合は、Expressway バージョン X14.3 以降を使用する必要があります。それより前のバージョンの Expressway は、Web Bridge 3 ではサポートされていません。

表 5： Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールキャパシティ – 外部発信に Expressway を使用

セットアップ	通話タイプ	CE1200 プラットフォーム	大規模 OVA Expressway	中規模 OVA Expressway
Cisco Expressway (X14.3 以降)	フル HD	150	150	50
	その他	200	200	50

Expressway ペアをクラスタリングすることで、Expressway のキャパシティを増大させることができます。Expressway ペアのクラスタリングは、最大 6 ノードまで可能です（4 ノードは拡張のために使用され、2 ノードは冗長性のために使用されます）。その結果、1 ペアのキャパシティの 4 倍の合計コールキャパシティが得られます。

注： Cisco Meeting Server Web アプリケーションのコールについては、Expressway クラスターのコール セットアップ レートが 1 秒あたり 6 コールを超えることはできません。

6.6 Cisco Meeting Server Web アプリケーションのキャパシティ：混在（内部 + 外部）発信

スタンドアロンとクラスタのどちらの導入環境でも、内部と外部を組み合わせたコールの使用をサポートできます。内部参加者と外部参加者が混在してサポートされている場合、Web アプリケーションの合計キャパシティは、内部発信の場合と、外部発信に Cisco Meeting Server Web エッジソリューションを使用する場合は、表 4 に従います。ただし、エッジで Expressway を使用している場合でも、外部から接続できる合計内の参加者数は表 5 の制限に 制限されます。

たとえば、1 つのスタンドアロン Meeting Server 2000 と 1 つの 大規模 OVA の Expressway のペアでは、音声のみの Web アプリケーションコールであれば混在で 1,000 までサポートしますが、外部参加者の数は、合計 1,000 のうち最大 200 に制限されます。

付録 B: アプリケーション機能の比較

表 6 : Cisco Meeting Server Web アプリケーションの機能比較

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
総合									
Cisco Meeting Server バージョン	3.8	3.7	3.6	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	3.0
メンバーのアクセスの管理	○	○	○	○	○	○	○	×	非対応
ユーザーレベルのアクセス許可 (例: スペースを作成可能)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ローカリゼーションのサポート	○	○	○	○	○	○	○	○	×
ブランディング	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オンラインヘルプ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
暗号化	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シングルサインオン	○	○	○	○	○	○	○	○	×
アラビア語のサポート	○	○	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
チェコ語のサポート	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
ビデオアドレス (URI) を使用して参加	○	○	○	○	○	○	○	○	○
会議のスケジュール設定									
スケジュールされた会議の一覧を表示	○	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
会議のスケジュール設定	○	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応
スケジュールされた会議の変更	○	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応
スケジュールされた会議の削除	○	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応
スペースの管理									
スペースメンバーのロール	○	○	○	○	○	○	○	×	非対応
スペースの作成/編集	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新しくプロビジョニングされたスペースのアクティブ化	○	○	○	○	○	○	○	○	×
スペースメンバーの追加/編集/削除	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メンバー追加機能のディレクトリ検索	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スペースの情報の表示	○	○	○	○	○	○	○	○	○
招待を送信	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音声とビデオ									
音声	OPUS	OPUS	OPUS	OPUS	OPUS	OPUS	OPUS	OPUS	OPUS
ビデオ	H.264、VP8	H.264、VP8	H.264、VP8	H.264、VP8	H.264、VP8	H.264、VP8	H.264、VP8	H.264、VP8	H.264、VP8
マイク/カメラ構成の制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
背景のぼかし	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応	非対応
仮想背景	○	○	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
遠端カメラ制御	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応	非対応
オーディオとビデオの自動優先順位付け	○	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
画面共有									
コンテンツの拡大	○	○	○	○	○	○	○	×	非対応
コンテンツのズームをリセット	○	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応
画面共有の表示	○	○	○	○	○	○	○	○	○
デスクトップ共有	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アプリケーション共有	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新しいウィンドウでの画面共有の表示	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ビデオペインのサイズ変更	○	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応
コンテンツ オーディオの共有	○	○	○	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応
テキスト用に最適化 (1080p で画面を共有)	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
チャット									

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
チャット (会議のすべての参加者にブロードキャスト)	はい (会議中のみ)	はい (会議中のみ)	はい (会議中のみ)	はい (会議中のみ)	はい (会議中のみ)	はい (会議中のみ)	はい (会議中のみ)	×	非対応
チャット (プライベート)	はい (会議中のみ)	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
通話中									
画面上のメッセージ	○	○	○	○	○	○	○	×	非対応
全画面表示	○	○	○	○	○	○	○	○	○
レイアウト制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名前ラベル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
録画	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ストリーミング	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アクティブスピーカーラベル (ベータサポート)	○	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応
セルフビュー	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セルフビューの固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セルフビューのミラー表示	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セルフビューに移動	○	○	○	○	○	○	○	○	○
HD/SD の選択	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プレゼンテーション プレビューの固定	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プレゼンテーション プレビューの移動	○	○	○	○	○	○	○	○	○
会議メモ	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応	非対応

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
字幕	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応	非対応
ファイルの共有	○	○	○	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応
ネットワークの正常性インジケータとメディア統計	○	○	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
コンテンツ共有の指標	○	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
ロゴのサポート	○	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
アンケート	○	×	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
参加者									
参加者の移動	○	○	○	○	○	○	○	×	非対応
参加者の追加	あり (SIP のみ)	あり (SIP のみ)	あり (SIP のみ)	あり (SIP のみ)	あり (SIP のみ)	あり (SIP のみ)	あり (SIP のみ)	あり (SIP のみ)	あり (SIP のみ)
参加者の削除	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ロックされた会議への参加者の許可	○	○	○	○	○	○	○	○	×
参加者ロールの変更	○	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応
参加者を重要にする	○	○	○	○	○	○	○	○	○
他の参加者の音声とビデオを個別にミュート/ミュート解除	○	○	○	○	○	○	○	○	○

機能	Web アプリケーション 3.8	Web アプリケーション 3.7	Web アプリケーション 3.6	Web アプリケーション 3.5	Web アプリケーション 3.4	Web アプリケーション 3.3	Web アプリケーション 3.2	Web アプリケーション 3.1	Web アプリケーション 3.0
すべての参加者の音声とビデオをミュート/ミュート解除	○	○	○	○	○	○	○	○	○
会議中に診断を送信	○	○	○	○	○	○	○	○	○
招待の送信	○	○	○	○	○	○	○	○	×
通話情報の表示	○	○	○	○	○	○	○	○	×
通話中のマイク/カメラの制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○
挙手機能	○	○	○	○	○	○	×	非対応	非対応
通話の移動									
このデバイスを画面共有と通話管理のみに使用（別のデバイスが音声とビデオに使用されている場合）	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注：通話中に外部エンドポイントに通話を移動したり、音声を通常の電話に移動したりすることはできません。

ユーザー補助の注意事項

シスコは、利用しやすい製品およびテクノロジーの設計および提供に取り組んでいます。

Cisco Meeting Server に関する Voluntary Product Accessibility Template (VPAT) は次の場所で入手できます。

http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal_regulatory/vpats.html#telepresence

ユーザー補助の詳細については、

www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html を参照してください。

シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されており、この参照により本書に組み込まれるものとします。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) により、UNIX オペレーティングシステムの UCB パブリック ドメイン バージョンの一部として開発されたプログラムを適応したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、サプライヤ各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品適格性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルに適用できるまたは適用できないことによって、発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコおよびその代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している Internet Protocol (IP) および電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークポロジ図などの図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この文書の印刷されたハードコピーおよび複製されたソフトコピーは、すべて管理対象外と見なされます。最新バージョンについては、現在のオンラインバージョンを参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所と電話番号は、当社の Web サイト (<http://www.cisco.com/jp/go/offices>) をご覧ください。

© 2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

シスコの商標

Cisco およびシスコのロゴは、シスコまたはその関係会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/ip/go/trademarks をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナー関係が存在することを意味するものではありません。(1721R)